

秋田産業サポータークラブ夢づくりWG 一回目実施報告書

2018年9月20日

夢づくりWGの主旨

主査 伊嶋謙二（一般社団法人創生する未来 代表理事）

企業振興WGの派生した活動。秋田の有する芸術・文化を中心とした企業活動にフォーカスして、秋田県を振興するための事例を考察、サポートする。特にわらび座の活動を中心に、秋田と全国、グローバルをつなぐ文化複合事業としての現状と展望を、適宜わらび座の代表を交えて年数回のディスカッションを行い、首都圏、秋田の関係者へその活動をフィードバックする。

メインテーマ

「劇団わらび座は、秋田のローカル文化を世界規模に昇華する」

秋田県仙北市にあるわらび座は、舞台芸術活動をもとに、今では複合化した大きな産業まで昇華させている企業である。また仙北市は田沢湖、角館の観光資源が強みで、国内だけでなく、海外からも多くの観光客が訪れる。その観光と合わせ、文化産業としてのわらび座の実績と貢献を、国際化・インバウンドで観光客を呼び込む力として、大いに期待できることから、企業振興の観点で、文化事業としてのアプローチでわらび座をフォーカスしたWGで秋田県をサポートする。

WGのスケジュール（下線が当該WG）

第一回 はじめ・今はどうなっている？（現状把握） 2018年9月20日

「文化事業を大きな産業に昇華するためにわらび座が何をするのか？できるのか？」

・現状と課題（地域とわらび座）（文化芸術と地域経済）わらび座としての現状と課題）

・今後の展望

上記をわらび座代表の山川氏がプレゼンを行い、その後参加者とのディスカッション。

第二回 さて、どうするか？（課題と計画）

2018年11月30日

ゲストスピーカー 玉川大学小酒井教授によるIoT/AI×舞台芸術×事業創造でのプレゼン。

山川社長と小酒井教授の対談及び参加者とのディスカッション。

第三回 最終・振り返り（具体的なビジネスコラボの展望）

2019年1月30日

最終回は、具体的なわらび座の新たな舞台演出と事業展開を提案している企業のオーエムジーワークス代表の川邊さんとオクトライズ代表の茂木さんのプレゼン。さらに次年度に向けてのWG活動の討議。

場所：都道府県会館 秋田事務所（7F）

時間：16時-18時

参加者（順不同、敬称略）

サポータークラブ

加賀谷、喜藤、佐々木、菅原、伊嶋、竹内、鯨岡

秋田県事務所

兼子、畠山

講師

山川

わらび座代表 山川氏のプレゼン主旨

・わらび座は舞台芸術、文化産業というのは商業的に成り立つように運営できなければならない。わらび座を中心に、秋田県全体で盛り上げていけるはず。そしてわらび座はレストラン、観光事業など複合企業化している。良い面も多いが課題も見えてきている。命題であるわらび座＝あきた芸術村は新しい時代の産業として、秋田発で文化を産業に、そして秋田全体を牽引する中核企業としないといけない。

・わらび座には二つの課題がある。ブランドと資金だ。これをきちんと対応しない限り新しいわらび座を構築できない。今回のテーマである文化をきちんと産業化する＝経済的にも効果を出す、にするとするのは、わらび座が持つ良質なコンテンツを組み合わせてもうかる仕組みを作る必要がある。

参加者からは「押しかけ公演から地域拠点型に変えるということ。もう一つは、滞在型でもうかる仕組みを作る。そのあとでアート、文化芸術と教育、文化芸術と医療、旅行、観光を組み合わせる。それは非常に重要。」との意見もでた。

・わらび座の経営という観点での課題は資金力。ビジネスパートナー、スポンサーを見つけたい。わらび座と一緒にやることで企業価値が上がるようなパートナーを獲得する必要がある。本拠地の劇場を建て直したい。また新たに350人ぐらいの新しい劇場を作りたい。思いを共有する人をもっと増やしたい。わらび座内部での新しい経営幹部はそういう方向性を共有している。

・中期的なビジョンとしては、あきた芸術村が志向しているのは、いわゆる総合芸術村の構築だ。アメリカ・オレゴン州のアシュランドという町にある施設。そこはカリフォルニアからちょうど車で6時間のところに1万2000人の町。そこに舞台を見るための観光客が40万人くらい来る。あきた芸術村もそこを目指したい。

・わらび座のある仙北市は国家戦略特区で、先進技術と地域の事業の融合という動きが活発。その中でドローンやプロジェクトマッピングなどをわらび座で実験を行った。仙北市で実施されている仙北インパクトチャレンジなど新しいテクノロジーとの融合のような形で、わらび座の新たな展開も少しづつ見えてきている。



第二回秋田産業サポータークラブ夢づくりWG報告書

WGのスケジュール（下線が当該WG）

第一回 はじめ・今はどうなっている？（現状把握）

2018年9月20日

「文化事業を大きな産業に昇華するためにわらび座が何をするのか？できるのか？」

・現状と課題（地域とわらび座）（文化芸術と地域経済）わらび座としての現状と課題）

・今後の展望

上記をわらび座代表の山川氏がプレゼンを行い、その後参加者とのディスカッション。

第二回 さて、どうするか？（課題と計画）

2018年11月30日

ゲストスピーカー 玉川大学小酒井教授によるIoT/AI×舞台芸術×事業創造でのプレゼン。

山川社長と小酒井教授の対談及び参加者とのディスカッション。

第三回 最終・振り返り（具体的なビジネスコラボの展望）

2019年1月30日

最終回は、具体的なわらび座の新たな舞台演出と事業展開を提案している企業のオーエムジーワークス代表の川邊さんとオクトライズ代表の茂木さんのプレゼン。さらに次年度に向けてのWG活動の討議。

第二回夢づくりWG

日時：2018年11月30日（月） 16:00～18:00

会場：秋田県東京事務所（東京都千代田区平河町）

講師：小酒井正和氏（玉川大学工学部 マネジメントサイエンス学科教授）

参加者（順不同、敬称略）

サポータークラブ

加賀谷、喜藤、鯨岡、佐々木、菅原、鈴木、竹内、長谷川、本間、光藤

秋田県事務所

兼子、畠山

講師

小酒井

第二回 さて、どうするか？（実際と計画）

「あきた芸術村に関する将来の展望」というテーマで 小酒井正和氏（玉川大学工学部 マネジメントサイエンス学科教授）にプレゼンを行ってもらった。

<内容要旨>

あきた芸術村について

①経営戦略論的な視点での分析結果を明らかにすること

②それに対する展望と施策（案）を探ること

を中心にお話してもらった。具体的な活動としては以下の3点。

施策①：仙台プレゼンバトル

狙い：あきた芸術村のリソースをいかに差別化できるかを幅広く捉えること

施策②：森林工芸館インターンシップ

狙い：コザカイ組の学生の修行、既存の価値の再発見

施策③：VR体験、プロジェクションマッピングに関する意識調査

狙い：IT系の施策は、お客様・地域住民にどのように見えるのかを検証すること

最後に、既存の価値と新しい価値の共創、どうすれば、お客様を“ファミリー”へ移行できるだろう？

という点で締めくくって、わらび座の山川氏、参加者とのディスカッションを行った。

参加者からは、学術的な側面の話はとても参考になった。あとは具体的なあきた芸術村における事業化への道筋をどのようにすべきかといった、観点での議論が中心に行われた。特に玉川大学が実施した3つの具体的な施策がどのように効果が出るのかあたりがポイントであった。

秋田産業サポータークラブ夢づくりWG三回目実施報告書

2019年1月30日

WGのスケジュール（下線部分が当該）

第一回 はじめ・今はどうなっている？（現状把握） 2018年9月20日

「文化事業を大きな産業に昇華するためにわらび座が何をするのか？できるのか？」

・現状と課題（地域とわらび座）（文化芸術と地域経済）わらび座としての現状と課題

・今後の展望

上記をわらび座代表の山川氏がプレゼンを行い、その後参加者とのディスカッション。

第二回 さて、どうするか？（課題と計画） 2018年11月30日

ゲストスピーカー 玉川大学小酒井教授によるIoT/AI×舞台芸術×事業創造でのプレゼン。

山川社長と小酒井教授の対談及び参加者とのディスカッション。

第三回 最終・振り返り（具体的なビジネスコラボの展望） 2019年1月30日

最終回は、具体的なわらび座の新たな舞台演出と事業展開を提案している企業のオーエムジークス代表の川邊さんとオクトライズ代表の茂木さんのプレゼン。さらに次年度に向けてのWG活動の討議。

場所：都道府県会館 秋田事務所（7F）

時間：16時-18時

参加者（順不同、敬称略）

サポータークラブ

加賀谷、喜藤、菅原、伊嶋、竹内、三宅、鯨岡

秋田県事務所

兼子、畠山

講師

山川、茂木、川邊

<プレゼン要旨>

秋田から世界へ！わらび座とKira2（キラキラ）ディスプレイなどの新技術とのコラボによるビジネスの可能性

・株式会社オクトライズ代表 茂木聡氏

・合同会社オーエムジークス代表 川邊正和氏

秋田発の地元IT企業が、エンターテインメントの本場アメリカを想定した新たな技術を基にしたKira2ディスプレイで、わらび座との連携を視野にビジネス提案を行っている。今回はその具体的な提案をベースとしたプレゼンを行ってもらった。

舞台役者と演目そのものまであらたな技術をもとにした、演者と観客が一体となった、双方向での舞台芸術、活動が可能になるなどの方向性を有する提案だ。特にあらたなハードなどの購入など必要なく、手持ちのスマートフォンでのアプリケーション管理なので、利用・運用のハードルは低い。まだ仕上がりまでには少し時間がかかるが、2019 年度中には、わらび座と具体的な演目や観客との実験が行われる予定だ。当日の WG の参加者で、Kira2 ディスプレイのデモも行い、具体的な利用感も体感できた。

～エンターテインメント演出におけるスマートフォンの活用～

「Kira2 ディスプレイ」本製品で対応できる市場やニーズの例

- ・コンサート（屋内、夜間）
- ・プロジェクションマッピングとのコラボ
- ・学園祭、地域イベント、クリスマスイベント
- ・花火大会、祭り、エレクトリカル・パレード
- ・結婚式披露宴演出
- ・クラブイベント演出
- ・野球ナイター（日米）
- ・NBA、スーパーボウル等（米国）
- ・夜のスキーイベント
- ・フィギュアスケートエキシビション等

イベント系業界や、海外展開経験ノウハウを持っている業者からのアイデアを募集している。

